

H 1 5 . 6 . 1 6 設楽ダム魚類検討会（現地視察会） 議事概要

日 時：平成15年6月16日（月） 11時00分～16時00分

議事概要：

表 H 1 5 . 6 . 1 6 設楽ダム魚類検討会（現地視察会）の議事概要

議事項目	議事内容	委員の主な意見	意見に対する回答
1.事前討議	・現地視察の前に、今年度以降の調査検討方針や人工横穴設置実験の概略を説明した。	・遺伝的に異なるグループは、将来の保全措置、エコアップ等の検討に際し、別々に認識していく必要がある。	・事務局：今後の保全措置等を検討する際の前提条件とし、次回検討会で検討結果概要を提示する。
2.現地視察	・現地視察において、淵2地点で魚巢土管各24セットを設置した。 ・委員には胴長を着用頂き、箱眼鏡で『人工横穴』の設置状況をご確認頂いた。	・魚巢土管内にウナギが入り込む可能性が高いと思う。	・事務局：魚巢土管利用状況調査にあたっては、ネコギギ以外の魚種についても記録する。
3.事後討議	・現地視察後、人工横穴の設置状況や淵の物理環境等について各委員から総評を頂いた。	・自然界には魚巢土管のような単調な横穴はなく、人工物にすぎないという印象をうけたが、今後の様子を見たい。	・事務局：経過については次回検討会で報告する。
		・夜間調査時には、魚巢土管内部だけではなく、土管から周辺へのネコギギの行動経路を記録してはどうか。	・事務局：極力、記録に努める。
		・魚巢土管は、最終的な保全措置にはなり得ないと認識する。	・事務局：魚巢土管については、保全措置の最終案として想定しているのではなく、生息に適する環境条件を抽出するための実験と認識している。
		・淵の物理環境として着目する環境要素として、直上流との瀬があるが、淵の連続性（横断工作物等の有無）も記録してはどうか。	・事務局：淵の連続性についても記録する。
		・淵上下流の蛇行度について、地図上の測定だけで十分か。	・事務局：現地において、淵へ流入する河川の流入角度の記録、蛇行状況の把握を行う。
		・今回の実験、調査を通して、ネコギギの好適条件が抽出できれば、次にそれらが、自然界の中で自立的にどのように創出、維持されているかを検討していくことが重要である。	・事務局：今後の統計処理により、生息適地条件の抽出を試みる。
		・上記の検討を通して、保全措置、エコアップを検討していく必要がある。	・事務局：今後の課題としたい。